秋葉原で親子工作教室 ㊤

デジタルアンプ製作に挑む

秋葉原駅前商店街振興組合（理事長＝八巻秀次東洋計測器社長）は22、23日、秋葉原・富士ソフトで「オーディオ&ホームシアター展（音展、主催＝オーディオ協会）」の電子工作マガジン（電波新聞社刊）イベントを行った。共催と協賛企業は、東洋計測器、計測器ランド、カスタム、白光、千住金属工業。

同振興組合は、08年から親子で楽しむ工作教室を開催している。11回目となる今回は、大人も楽しめる工作教室を、との要望に応えたもの。22日は高校生以上を対象とした工作教室。10人が参加し、うち1年前の工作教室に参加した芦澤英明さん・亮君（中学3年）の親子が参加した。

あいさつを述べる八巻理事長

八巻理事長は、冒頭に「子供たちに工作の機会を与えている。大人たちから、ものづくりに取り組みたいとの声に応えた。ものを作ることは、人間が持つ創造性という本能かもしれない。利便性を求めすぎたかもしれない。ものづくりという付加価値をあらためて認識した」とあいさつを述べた。

西川電子部品の西川浩社長が足を運ぶなど、秋葉原の街を挙げて、ものづくりを応援した。

その後、千住金属工業フラックス製造研究部の東村陽子副研究員から、はんだに関する種類や効果などの説明や注意があり、〝やけどを防止する画期的なアイテム〟として、シャープペンシルのように使用できる、やに入りはんだ供給機を紹介した。

工作は、ワンダーピュア・デジタル・ミニアンプを製作。これは、高音質で評価の高いアンプIC搭載のコンパクトなデジタルアンプ。参加した大人たちは、昔取ったきねづかを発揮し、往年の腕前を披露。見学者からは「次回は、参加したい」「何か作ってみたくなった」という声が聞かれた。

互いに意見交換する参加者たちと東村副研究員㊥

大人たちに交じり、中学3年の亮君は「ものづくりは楽しい。いつかは、回路図が書けるようになりたい」と気持ちを語り、父親の英明さんは「オーディオの趣味に引き入れたかたちになった。真空管アンプを作ってもらいたい」とほほ笑んだ。

（つづく）